

第 12 回 九州外来小児科学研究会 in 沖縄

プログラム

平成 24 年 3 月 25 日 (日)

那覇 ロワジールホテル 2F 北殿の間

午前 9 時～午後 2 時

九州外来小児科学研究会

代表世話人 下村 国寿

沖縄県幹事 浜端 宏英・町田 孝

共催 沖縄県小児科医会

Mar 25 /
Kyusyu-SAGP in OKINAWA

プログラム

- 9:00 開会のご挨拶 代表世話人 下村国寿
- 9:05 特別講演 1 座長 わんぱくクリニック 呉屋良信 (医)
『アメリカ開業医はつらいよ』
ありがとう子供クリニック 二木良夫 (医)
- 9:40 一般演題(9:40~11:10)
- セッション 1 座長 沖縄県立中部病院 小濱守安 (医)
1. 夜間・休日電話相談から、小児救急医療について薬局の出来ることを考える
沖縄県 (株)薬正堂 すこやか薬局グループ 坂本政文 (薬)
 2. 高いところからは落ちる！ー体育館天井からの落下事故ー
山口県 谷村小児科 谷村聡
 3. 小児科でおこなう 1 か月健診ーそのメリットをデータで検証するー
山口県小児科医会乳幼児保健検討委員会 金子小児科 ○金子淳子 (医), 鈴木英太郎,
内田正志, 守分 正, 河野祥二, 門屋 亮, 藤原元紀, 鮎川浩志
山口県小児科医会 田原卓浩, 金原洋治
- セッション 2 座長 ぐしこどもクリニック 具志一男 (医)
4. 不活化ポリオワクチン接種の現況
熊本県 みうら小児科 ○三浦裕一 (医)、内田リカ (看)、伊藤嘉代 (看)、
徳永美智子 (看)、古賀智美 (看)、田上裕子 (看)
 5. 同時接種に対する小児科医の実態および意識調査
宮崎県 たかやま小児科 高山修二 (医)、○たかむら小児クリニック 高村一志 (医)
佐藤小児科 佐藤雄一 (医)
 6. ミニ・レクチャー「小児プライマリ・ケア講座」の内容と学生からの評価
福岡県 たけや小児科医院 武谷茂 (医)
- 11:10 日本外来小児科学会活動紹介 総務委員会 島田康 (医)
- 11:20 特別講演 2 座長 アワセ第一医院 浜端宏英 (医)
『沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児科研修における
アウトカム基盤型教育の試み』
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児腎臓科 吉村仁志 (医)

12:20~13:00 昼食

- 13:00 特別講演 3 座長 町田小児科 町田孝 (医)
『医学生 (M-zero) による「はしか」ゼロ活動』
M-zero 宮城怜奈、美里周吾、二木良平、渡久地愛梨、濱川和音、園原悠子
- 14:00 閉会のご挨拶 沖縄県幹事 浜端宏英

14:00~15:00 九州外来小児科研究会世話人会

第 12 回 研究会世話人 沖縄県幹事 浜端宏英

アワセ第一医院 〒904-2172 沖縄市泡瀬 2-54-26

Tel 098-937-5536 Fax 098-938-2186 E-mail awase555@cello.ocn.ne.jp

九州外来小児科研究会 代表世話人 下村 国寿
事務局 いなみつこどもクリニック 稲光 毅

『アメリカ開業医はつらいよ』

沖縄県 ありがとう子供クリニック 二木良夫 (医)

ご経歴

1984年 新潟大学医学部卒業

1984年~1991年 沖縄中部病院(研修)・八重山病院・名古屋大学小児科・大垣市民病院

1991年~1992年 ワシントン大学セントルイス小児病院 小児神経フェロー

1992年~1995年 アラバマ大学アラバマ小児病院 小児神経フェロー

1995年~1996年 ハーバート大学ボストン小児病院 脳波てんかんフェロー

1996年~1997年 ピッツバーグ・マーシー病院 小児科シニアレジデント

1997年~1999年 トヨタ記念病院小児科

1999年~2001年 ピッツバーグにて小児神経グループ開業

2001年~2008年 ホノルルにて小児科・小児神経科開業

2009年~2010年 豊見城中央病院小児科部長

2011年~ ありがとう子供クリニック 院長

私は、日本で研修終了後渡米。15年間米国で小児科医として働き、最後の9年間は、ピッツバーグおよびハワイで、小児科専門医、小児神経科専門医として開業しました。3年前に帰国し、研修病院での勤務をへて、1年前より、沖縄で開業しています。日米の開業の違い、医者作りの違い、アメリカ医療の影（医療保険、高額な医療費、医療訴訟）などについて述べてみたいと思います。

1. 夜間・休日電話相談から、小児救急医療について薬局の出来ることを考える

沖縄県 (株) 薬正堂 すこやか薬局グループ 坂本政文 (薬)

沖縄県内で25店舗の薬局を営業している「すこやか薬局グループ」では、平成16年から全店舗で緊急携帯電話を準備し薬剤師が輪番で対応することで、夜間や休日の患者さまからの相談に対応できる体制を整えている。今回は患者様から寄せられた相談内容の傾向や特徴を分析し、薬局が地域医療、小児救急医療にどのように貢献できるかを考察する。

相談件数は年間1000件ほどで、質問内容は多岐にわたるが、多くは小さなお子様をお持ちの保護者が、休日・夜間のお子様の急な体調変化等にどう対処したらよいのか、救急病院を受診した方がよいのかなど、判断に迷った時の質問である。当薬局の取り組む『夜間・休日電話相談』が地域に認知され、小児救急受診前の相談等に利用されることは、救急医療体制の一助になると考える。

2. 高いところからは落ちる！—体育館天井からの落下事故—

山口県 谷村小児科 谷村聡

同じような子どもの事故は繰り返し発生する傾向がある。学校現場の事故も同様である。重大な事故も後を絶たない。これらの事故のうち正しく対処をすれば回避できる可能性があるものも多い。プール排水口の吸引事故や屋上や天窓からの落下事故も、対処が遅れて繰り返して発生した。行政から危険性と対処を促す通達があっても、周知徹底されず同じような事故が何度も発生している。2011年11月に周南市の小学校3年生の女兒が体育館天井から転落し重傷を負った。実は2年前にも近隣の小学校で小学校5年生の男児が天井を踏み外すという事故が発生している。この2例と天窓からの転落事故から、同類の事故や通達がなぜ学校現場に生かされていないのか調査した。得られた事実関係の検証を、転落事故だけでなくすべての学校現場における事故防止に今後役立てていきたいと思っている。

3. 小児科でおこなう1か月健診—そのメリットをデータで検証する—

山口県小児科医会乳幼児保健検討委員会 金子小児科 ○金子淳子 (医), 鈴木英太郎,
内田正志, 守分 正, 河野祥二, 門屋 亮, 藤原元紀, 鮎川浩志
山口県小児科医会 田原卓浩, 金原洋治

山口県では赤ちゃんの1か月健診が全県下で公費助成され、大部分が小児科医により病院小児科あるいは開業小児科でおこなわれている。小児科医による1か月健診で、ヒブ、小児用肺炎球菌、ロタウイルスワクチンなど生後早期から接種が望まれるワクチンの啓発を「かかりつけ小児科医」がおこなうことにより、接種率の向上が期待されることが最大のメリットである。さらに、愛着形成支援、産後うつなどの視点で取り組むことで、虐待予防につながる可能性も大きい。その他、母乳栄養児の割合などのデータもふまえ、小児科でおこなう1か月健診のメリットを検証する。

4. 不活化ポリオワクチン接種の現況

熊本県 みうら小児科 ○三浦裕一 (医) 内田リカ (看)、伊藤嘉代 (看)、
徳永美智子 (看)、古賀智美 (看)、田上裕子 (看)

当院では、平成 23 年 7 月より不活化ポリオワクチンの個人輸入を始め、接種希望者への同ワクチン接種を開始した。取扱い開始から平成 24 年 2 月末までの延べ接種数は 392 接種であった。当院における、同ワクチン接種の現況を報告する。

5. 同時接種に対する小児科医の実態および意識調査

宮崎県 たかやま小児科 高山修二 (医)、○たかむら小児クリニック 高村一志 (医)
佐藤小児科 佐藤雄一 (医)

開業医 54 名、病院勤務医 15 名を対象に同時接種への対応の現状と意識を調査し、種類の増えた予防接種を早期にかつ効率よく接種するためにはどうすべきかを考えるための資料にすべく、アンケートを送付し、開業医 52 名 (96%)、病院勤務医 11 名 (73%) から回答を得たので報告する。開業医で 83%、病院勤務医は 100%同時接種を行っていた。

開業医、勤務医とも半数以上は 3 種類以上の同時接種を経験しており、ほぼ半数の小児科医は積極的に同時接種を勧めていた。ただ、保護者側はワクチンの安全性を憂慮し、接種する側は、同時接種後に自院で有害事象が生じたらどうなるだろうという漠然とした不安や、有害事象が生じた際のマスコミ、保護者の反応を心配しながら行っている実態が明らかになった。

6. ミニ・レクチャー「小児プライマリ・ケア講座」の内容と学生からの評価

福岡県 たけや小児科医院 武谷茂 (医)

久留米大学小児科では臨床実習項目にプライマリ・ケアを明示し、少人数講義 (ミニ・レクと略) と開業医 (現在 7 名) によるクリニック実習を組み込んでいる。ミニ・レクではプライマリ・ケアの総論を、クリニック実習では各論の現場教育を行っている。

2003 年に始まったミニ・レクは内容が少しずつ変わり、学生の総合内科医や家庭医志向が高まった頃から「総合医のための外来小児科学」が意識されるようになった。また、東日本大震災の後には「聴診器一本で診られる医師をめざす」に関心が高まっている。

ミニ・レクを受講した学生からアンケート回答が 2008～09 年には 131 通、2010～11 年には 198 通も寄せられている。その結果、ほとんどの学生が講義手法を「良」とし、多数が小児科への関心度を高め、ミニ・レクは有用であると答えた。詳細は当日報告する。ミニ・レクを 92 回経験し、医療・医学教育界の変動に合わせた内容変更が必要と感じた。

11:10 日本外来小児科学会活動紹介 総務委員会 島田康 (医)

教育検討会の日本小児科学会におけるシンポジウムの開催案内を中心として、日本外来小児科学会の現在の活動状況を報告いたします。

『沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児科研修における
アウトカム基盤型教育の試み』

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児腎臓科

吉村仁志 (医)

ご経歴

< 卒前教育 >

1985 年 3 月九州大学医学部卒業

< 卒後臨床研修 >

1985 年~1988 年

ハワイ大学卒後臨床研修

プログラム沖縄県立中部病院インターン

および小児科レジデント

< サブスペシャリティ研修 >

1992~1994 年

南カリフォルニア大学ロサンゼルス小児病院

腎臓・透析・移植科 臨床フェロー

American Board of Pediatric Nephrology

Eligible

< 医学教育学研修 >

2007 年~2009 年

英国スコットランド・ダンディー大学

医学教育センター大学院修士課程修了

Master of Medical Education 取得

2011 年~現在

岐阜大学医学部医学教育開発

研究センター大学院博士課程

< おもな職歴 >

沖縄県立中部病院小児科勤務 10 数年を

経て、2006 年より沖縄県立南部医療センター・

こども医療センター小児腎臓科 部長

21 世紀の医学教育の理念は、医学教育の質の担保をめざして、カリキュラム(研修プログラム)の終了時に社会のニーズにみあった医師がもつべき能力を明確に同定し、医師・コメディカル・社会がこれを共有し、それを強く意識しながら研修教育を計画・遂行してゆく「アウトカム基盤型教育」がその潮流になっている。2006 年から新開設した当院のこども医療センターにおいても、様々な診療や研修医卒後教育に対する価値観がぶつかりあうなか、沖縄でプロとして機能する小児医療を担う医師、小児科医をいかに育てるかを議論しつづけ、2009 年、そして 2012 年と「当院で育てる小児科医の能力」を社会的手法を用いて同定・改訂し、日々の診療現場での教育で修得すべきことの吟味、ローテーションブロックの形成的評価に用いてきた。まだまだ始まったばかりの当院での「アウトカム基盤型教育」であるが、これらの試みを紹介するとともに、指導医と研修医の現在のこの試みに対する感じ方の調査結果、現在の課題、また今後のさらなる推進の計画について紹介し、皆様のご助言・ご指導を仰ぎたい。

『医学生 (M-zero) による「はしか」ゼロ活動』

M-zero 宮城怜奈、美里周吾、二木良平、渡久地愛梨、濱川和音、園原悠子

【M-zero とは】はしかゼロに向けた大学生の団体で、琉球大学熱帯医学研究会（熱医研）に所属する有志で構成されている。平成 20 年、熱医研の先輩である砂川富正先生（国立感染研）の呼びかけで設立された。沖縄県はしかゼロキャンペーン週間で「学生緊急フォーラム」を 3 年間毎年開催し、平成 22 年、沖縄県はしかゼロプロジェクトの学生部会として認定された。平成 22 年から高校での出張授業、平成 23 年には中学生へも啓発活動を行っている。

M-zero では、はしかゼロを目指す活動理念として以下の 3 つがある。

1. 「麻疹排除に向けた活動の中で、麻疹、ならびにその対策について学習することで、学生自身の知識・理解の向上に努めること」。
2. 「活動者自身も感受性者であることを認識した上で、大学生、また高校生・中学生の同世代の若者へ働きかけを行っていくこと」。
3. 「麻疹排除に向けて活動をしている多方面と連携をとること」。

これらの理念を実践するために、はしかゼロ会議への出席、中・高校生向けのリーフレットの作成、高校生での出張授業などを行っている。出張授業では、高校生に話を聞いてもらうために様々な工夫を行っており、その実際を中心に報告したい。

報告内容

- ① M-zero 紹介 (美里周吾 5 年生)
- ② 授業 (二木良平、渡久地愛梨、浜端和音、園原悠子 以上 1 年生)
- ③ これからの M-zero とまとめ (宮城怜奈 5 年生)